

くまもと

シリシリと照りつ
ける南国の太陽が
東シナ海の彼方に落ち
る頃、熊本最大のイベ
ントの幕が切つて
落とされた。
「火の国まつり」
（熊本市）、「古墳祭」
（菊水町）、「山鹿灯籠
まつり」



情熱・ロマン・神秘
一挙に燃えた、くまもとの夏。

火の国まつり

熊本市の「火の国まつり」は、八
月十一、十二、十三日の三日間を祭
り一色に染めた。ハイライトは、十
二日に行われた「おてもやん総おど
り」。熊本民謡「おてもやん」とサン
バに編曲した「サンバおてもやん」
のリズムに合わせて二万人の踊りの
渦が目抜き通りを練り歩き、
通りは
興奮の
るつぼ
と化し
た。



まつり」（山鹿市）いずれも、
熊本の夏を代表する
火まつり。
この三
つの火まつり
が今年からドッ
キング。「くまもと
夏の三大火まつり」
と銘打って、八月十一日から六日間に
わたってくりひろげられた。



古墳祭

風土記ヶ丘菊水の古墳祭は、八月
十三、十四日の二日間。
国指定史跡江田船山古墳にちなむ
この祭り、最大の呼び物は、たい
まつ行列と炎の舞。古代装束に身
をまとい、手に手にたいまつをか
かけた火の宴は、見物客を太古の
ロマンへと誘った。

山鹿
灯籠まつり

ぬしは山鹿のほねなしとろうろヨへホ、ヨへホ...
ヨへホ節の優雅な調べに誘われて、今年も八月十五、
十六日の二日間、温泉郷山鹿の灯籠ま
つりが行われた。

景行天皇霊幸の折のいわれを
起源とするこの祭りは、六百年
の伝統を持つ灯籠づくりと、
優雅な灯籠おどりが売りもの。
中でも、金灯籠を頭に飾った
女性による千人灯籠おどりは、
まさに灯の海、光の海。
訪れた人々は幻想的な夏の
夜に酔いしれた。

